

“確かな手ごたえ”を感じながら

校長 中村 勉

校庭から元気な声援が聞こえてきます。迫った縄跳び大会に向けて挑戦する技を決め学習に取り組んでいるのです。子どもたちが互いに励まし応援する声・顔、素敵です。

子ども達の登校日も残すところ19日。6年生105名は、25日に卒業式を迎えます。一人一人の子どもが、自信をもって当日を迎えることを願っています。創立110周年でもあった平成15年度は、子ども達の学校生活での行動・姿・態度等から今まで以上に力をつけてくれたなと感じさせられる1年でもありました。

朝会の姿

音楽が校庭に流れます。遊びを止め校庭に集まってきます。集まってきた時にその場で足踏みしながら間隔をとっていくことが約束になっています。いつも姿勢を正して笑顔で足踏みをしているHさん、Nさん、Sさんたち。その姿を見て、真似をしていく子ども達。音楽が終わります。担当教師が整列の号令をかけます。見事です。きちんと距離、間隔がとれているので動かないのです。自分達でできることが素晴らしい。また、私の自慢の1つですが、2小の子ども達の話の聞き方が素晴らしい。話す人をしっかり見つめ、しっかり聴き取ろうとしています。問いかける話をするのとたくさんの答えが返ってくるのも私の楽しみの1つでした。

朝の読書タイム

教室に入ると、皆好きな本を出し、だまって読んでいます。勿論教師も仲間です。定着しました。私の教師生活の中でたった1年間でこんなに子ども達の姿が大きく変わった取組はありませんでした。私達教師も変わったのかもしれませんが。全校全員で取組んだ結果です。

学習の姿

口をしっかりと開け、適度な声の大きさ、速さで全員で音読をしている国語学習。自己が選択した課題を追究している社会学習。用具の準備から後片付けまで全員が力合わせて学習に取り組んでいる体育学習。小グループで自分の考えを出し合い、学び合っている算数学習。疑問を解決するために取り組んでいる理科学習。「分からない、できない」と言うことができる学級風土、雰囲気。創作活動そのものに没頭している専科の学習。子ども達が学び合い、高め合う姿をたくさん見ることができました。

子どもの姿をよりよく変えた秘密

第一は、日常的な1時間、1時間の授業づくりに取り組んだ教師の取組がありました。

第二は、保護者・地域の皆様の学習活動へのサポートの取組がありました。

子どもの学びを豊かにしていく基本は、理論でも理屈でもありません。直接一緒に活動に参加し、子どもの取組を支援して下さることです。お仕事をお持ちの中で子どもとともに、教師とともに取組んでくださった多くの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。この取組をさらに大きな輪にしていきたいです。

この1年間のご協力、ご理解、ご支援ありがとうございました。

3月の予定

(B時間割)

- 1日(月)委員会
- 2日(火)保護者会(5,6 14:00~)
- 3日(水)なわとび大会(1校時)
- 4日(木)6年生を送る会 お別れ給食会

(A時間割)

- 8日(月)保護者会(1,2 14:00~)
- 11日(火)保護者会(3,4 14:00~)

(B時間割)

- 15日(月)避難訓練
- 19日(金)音楽朝会
- 20日(土)教育課程説明会 1
10:00~(於:体育館を予定)

(特別時間割)

- 23日(火)給食終了
卒業式予行(5,6,職)
午前授業(1~4)
大掃除(4校時)
- 24日(水)修了式(1~4 11:30頃下校)
卒業式前日準備(5,6,4校時)
- 25日(木)卒業式
- 26日(金)春期休業日開始

1

=「教育課程説明会」って? =

過日、「学校評価報告」の添付文でも触れさせていただきましたが、来年度の二小の「教育計画」について、説明させていただきます。「教育課程説明会」という名称が何だか固苦しく「パス!」と思われる方もおられるのではありませんか?後日、改めてご案内を配布させていただきますので、ぜひ一度参加してみてください。二小の教師が全員出席し、皆様のご質問にも、お答えさせていただきます。



3月の生活目標

「1年間の成長をふりかえろう」

3月は1年間のまとめと、新しい学年への準備をする大事な月です。この1年をふり返り、できるようになったこと、がんばったことを数えてみてください。きっとたくさんあるはずです。成長のあとをしっかりと確かめ、自信と希望を持って新しい学年を迎えてほしいと思います。

2月に行われた、新一年生の保護者会で配布したプリントに次のようなことが載っていました。

- 身の回りの始末ができるように。
- 偏食がないように。
- いつも清潔に。
 - ・ハンカチ、ちり紙を忘れずに持つ。
 - ・つめを短く切る。
 - ・外から帰ったら手洗い、うがいをする。
- はっきりと返事ができるように
- すべての持ち物に記名を。

入学した頃は、がんばっていたことでも学年が進むにつれておろそかになってきているものもあるようです。新学期に向けて、もう一度初心に戻ってみたいはいかがでしょうか。

生活指導担当

学校探検 3月編

寒さに負けない丈夫な体作りとして、2学期は、マラソントイムを実施しました。3学期は、なわとびに取り組んでいます。1月末に、全校に配られたなわとびカードの級をめあてに、みんな練習に励んでいます。体育の時間はもとより、休み時間も熱心に練習している姿をたくさん見かけます。2月13日から20日までの間、なわとび検定が実施されました。挑戦したい級がある1年生から3年生の子たちが、20分休みになると、朝礼台の前に集まります。そこで5、6年生の体育委員のお兄さんお姉さんに、一人ひとり跳んでいるところを見てもらいます。カードに合格の印を押してもらえた子の顔は、とても嬉しそうでした。

3月3日(水)には、校庭で、なわとび大会がひらかれます。朝会と1校時の時間を使って、全校体育として行います。時間跳びと個人種目をやります。時間跳びは、前跳びで各学年の目標タイムを、跳ぶものです。

1年生・・・30秒 2・3年生・・・1分

4年生・・・1分30秒 5・6年生・・・2分

一見簡単そうに見えますが、このタイムでもひっかからず続けて跳ぶのはなかなか難しいものです。単調な跳び方だけに、集中力が要求されます。

個人種目は、5種類の中から2種目まで自分で選び、各学年の目標タイムを跳ぶものです。(二重跳びだけは、半分の時間です。)

グーパーとび グーチョキとび 二重とび あやとび 交差とび

個人種目のあとに、はやぶさ・リトル・サイドクロスとび等、高度な跳び方ができる子に、全校の前でその技を披露してもらいます。なわとびは、短なわ1本でできる手軽な運動ですが、高度な跳び方ができる子に、全校の前でその技を披露してもらいます。なわとびは、短なわ1本でできる手軽な運動ですが、高度な跳び方となると、その力強さと美しさに、思わず見とれてしまいます。

健康教育担当

サポートスタッフだより

1年間、二小のサポートスタッフへのご協力ありがとうございました。皆様のご協力により、子どもたちの学習がより充実したものになったように思います。また、皆様のご協力をいただきサポートスタッフルームの整備等行うこともできました。大変ありがとうございました。今年度は、4月募集登録の後、学年、専科、担当からの募集が先行して、4月に名簿登録していただきながら、お声がかからなかったという方もいらっしゃることは、大変に申し訳なく思っています。

来年度のサポートスタッフについては、制度は継続していくこととなりますが、有効運営への改善をはかりながら進めていこうと考えています。

来年度も、多くの目で子どもにかかわり、学びを創っていく『二小のお助け隊』の皆様のご協力をお待ちしています。

サポートスタッフ担当

二小の授業づくり その11

二小の校内研究では、外部講師をよんだ授業研が23回ありました。外部講師に授業を見ていただき、専門的立場に立っているいと講評をいただきました。外部講師の方々は我々がいい授業ができるように、ときには厳しく冷たい言葉を放ち、ときには暖かく励ます言葉をおっしゃられます。教師はかくのごとく叱咤激励の嵐の中で切磋琢磨をして授業をみがいております。

こうした外部講師の言葉の中で、我々が授業を作る際に座右の銘のごとく、ためになった言葉はどんな言葉だったのでしょうか。先生方にそうした言葉を聞いてみました。また、それが授業にどのように生かされるようになったかもあわせて聞いてみました。

「(外部講師の言葉)」 (その後の授業では)

「その場に合った適切な評価をすることが子どもの意欲を高める」

子どもの実態を細かく見るようにした。

「教師の『わかってほしい』という思いは、必ず子どもに伝わるはず」

さまざまな工夫をして、何とか理解してもらおうという気持ちを持ち続けようと努力した。

「一時間一時間の課題を明確にすること！」

子どもが『今日は何をするのか』がわかり、意欲が増した。

「ノートの使い方で自分の考えが深まる」

実践している。

「論理はすなわち形式だ(作文の書き方)。瞬間的に判断して評価できなければ教師じゃない。教師は社会のおきてを教えなくてはならない。教師が方針を示して進むと子どもがついてくる。信賞必罰。)

評価と指導を授業の際重視している。

「いい発言をしたときは、すぐその場でほめる。後ではおそい。」

それまでもいい発言は評価していたが、よりいっそう「その場で」を意識するようになった。

校内研究担当

職員の窓

～職員からみた、いろいろな二小の子どもの様子、日々の取り組みなどをリレー形式で紹介していきます。第11回は、中島寛人教諭です。

交流の場を広げていきませんか

先日、生活科の時間に学級の子もたちと校庭の桜を見に行きました。すると、「つぼみがついてるよ」と。教室からは枝しか見えない桜の枝にたくさんのつぼみがついていました。満開の桜を咲かせるための準備を始めていたのですね。今年の桜はいつ満開を迎えるのでしょうか。子どもたちとその日を楽しみにしています。

さて、二小には「情報教育」「イントラネット」「サポートスタッフ」の3つのジャンルに分けたメーリングリスト(以下ML)があります。“ML”とは、Eメールを使って参加者と話し合いの場をもつものです。つまりパソコン上での意見交換の場です。現在、参加者は、保護者、地域協力者、教職員を合わせて約80名ほどです。ML上に流れたメールはどれも貴重な意見ばかりで、日々の学習活動を充実させるために参考にさせていただいています。時間や場所を問わないこと、参加者全員に伝わるのがメールの利点です。

外部評価にもあったように、コミュニケーションの活性化が次年度の課題の一つです。そこで、MLを学校全体に広げ、多くの方々と意見交流をして、二小の教育活動に生かしていきたいと考えました。普段、なかなか学校に来ることができない方もメールを使って、二小の情報を共有していくことができれば、より一層、家庭と学校が身近になっていくと思います。メールを使って交流し、その輪を広げていきませんか。詳細については、後日お知らせします。(携帯電話のメールでも参加できるようにする予定です。)

情報教育担当